



健康会だより

<主旨と理念>

長谷部式健康会は『自分の健康は自分の努力で』をスローガンに健康普及活動をしている会です。健康は人生最高の宝です。世界人類の健康と平和に奉仕しましょう。『体質別』は健康を守る自然の法則です。

発行所 長谷部式健康会 総本部
〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13
発行人 長谷部茂人
発行部数 3000部
tel 0586-46-1258
fax 0586-46-0367
Eメール hello@hasebe-kenko.com
URL https://hasebe-kenko.com/

神風邪と衛る力 「攻め」より「備え」



力自慢の北風と太陽の知恵の物語に学ぶ

ある時、北風と太陽が力比べをしようとする。そこで、通りすがりの旅人の外套を脱がせることができるかという勝負をする。まず、北風が力いっぱい吹いて上着を吹き飛ばそうとする。しかし寒さを嫌った旅人が外套をしっかりと押さえてしまい、北風は旅人の服を脱がせることができなかった。次に、太陽が燐燐と照りつけた。すると旅人は暑さに耐え切れず、今度は自分から外套を脱いでしまった。（以上、イソップ寓話『北風と太陽』あらすじ）



力ずくには力ずくで対抗される。生命はお互いに生きているのだから、わが身の命を脅かされるほどの危機に迫られたら、最大限の力で対抗しようとして当然です。相手を力でねじ伏せようとするには限界があります。

一方、相手の素性をよく知って、その特性に逆らわないように交わす知恵で望めば、相手のほうから降参を願いでも、身体を戦場にする前に攻撃しても無意味であることを説得する「衛りの力」を見せつければ、一目散に逃げ出すことでしょう。

新型コロナ…実は日本人の6割が免疫できている！？

一昨年の今頃、日本に寄港した豪華クルーズ船の乗客に未知のウイルス感染症が襲い掛かり、死者多数という前代未聞の事態に陥った。やがて、命名された病名が新型コロナウイルス感染症covid-19だった。

かつてないスピードでワクチンが開発され、緊急使用許可が降りて、先進国を中心に一斉に接種されたのはその1年後だった。その間の1年間、ワクチンもまだない期間、日本だけが感染率、重篤化、死亡いずれも欧米の40～100分の一という驚異的な低さに世界から疑義の声がある一方、ノーベル賞受賞者の京都大学医学部山中教授が、「ファクターX」という言い得て妙な発言で世間を賑わした。日本人は特別な要素において、新型コロナに感染しない、感染しても重篤化しないという。

その特別な要素ファクターXを、先ごろ理研の研究員が解明したという。

新型コロナウイルスに対する防護機構HLA-A24を持つ日本人は6割（右）という。

その作用イメージ図式（下）

※共に理研HPより引用



日本人の約6割にある白血球の型HLA—A24を持つ人は、風邪の原因となる季節性コロナウイルスに対する免疫細胞が、新型コロナウイルスの感染細胞も攻撃するという実験結果が得られた。この型を持つ人のキラーT細胞は、季節性コロナと新型コロナで、共通する部分の分子に反応することがわかった。キラーT細胞には、こうした特徴を記憶する働きがある。過去に季節性コロナに感染した人が、新型コロナに感染すると、体内で眠っていたキラーT細胞が速やかに増え、感染細胞を排除している可能性があるという。(以上、12/10読売新聞より)

早い話、日本人はショッチュウ風邪をひくので、コロナ環をもつウイルスに対する免疫力があり、新型コロナにも専門用語で交差免疫ができているというもの。
いやあ～ホントに早い話！



スペインかぜの何倍、それとも何分の一？

1918年から1920年に流行したスペインかぜは、全世界で患者数約6億人、2,000万から4,000万人が死亡したという。他説では患者数5億人、死亡数5千万人とされる。

スペインかぜはヒトにおけるA型インフルエンザウイルスによる流行であることがわかっている。A型インフルエンザウイルスは元来鳥類を中心に保有されていたウイルスで、少しずつその遺伝子を変化させ、現在流行している香港型やソ連型に変異したと考えられている。

当時はウイルスの正体も十分な解析がなされておらず、抗生物質すら確立されてはいない。なんだかよくわからないが「危険な感染症」として、罹患者の隔離、マスク着用、徹底した消毒が行われました。

仮にタイムマシーンを使って当時の人たちにPCR検査したら、陽性者数はその5～6倍になるはず。計算では25～30億人？あれっ！当時の世界人口は約18億人だから、通り過ぎている。ここでも早い話、当時全世界のPCR検査陽性率100パーセントにならないか？

陽性率
100パーセント



新型コロナのオミクロン株。日本では連日3万人がPCR検査を受けている。昨年12月は0.1パーセント前後、デルタ株流行の第5波ピーク時で瞬間に検査を受けた3～4人に一人が陽性という日が何日かあった。日本における過去2年間の新型コロナ累計PCR検査陽性者数が昨年末時点で1,712,000人弱。第5波ピーク時でPCR検査2万人強が陽性と判定されたが、それは日本全人口

割合でいうと5千分の1ほどか？第5波ピークが5千日続いて100パーセントの感染者。12月の数百人だと…計算はしないが、その前に治るか死ぬかしてウイルスは過去のものになる。



新型コロナが流行する前、日本ではスペインかぜ由来の香港型、ソ連型インフルエンザに罹患する人が通年でおよそ1200万人いるという。PCR検査を日本人全数行ったら、もしかすると国民の半数近くが陽性と判断されるかもしれない。

スペインかぜ由来の強いインフルエンザ感染症を問題にしないで、5千分の1(デルタ株で)しか悪さしない新型コロナにさいなまされる日々をいつまで続けないといけないのか？

細胞は細胞から、ウイルスは…？

「全ての細胞は細胞から生じる」と明言したのはドイツ人医師で病理学者、生物学者、白血病の発見者として知られるルドルフ・フィルヒョウ。学問の枠を超えた活動に、特に公衆衛生に大いに貢献しました。



ルドルフ・フィルヒョウ
(1821-1902) 政治家としても知られる。

また、人間の全ての細胞が同じ30億対にも及ぶ遺伝子を持っていて、細胞組織ごとに役割分担が決まっている。それが今の医科学の応用技術で違う細胞から別なる役割機能を作り出すことも可能な時代になってきた。何年前だったか、当時、理研研究員だった小保方晴子さんが「STAP細胞あります」と言っていたのを思い出します。

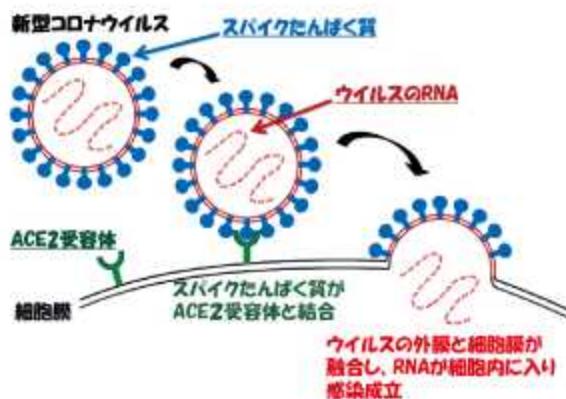


小保方晴子(1983-) 当時の共同研究がノーベル賞かもと騒がれた。

「全ての細胞は細胞から…」なのに、全ての細胞が違う役割を担っている。かつ、臓器組織として担当部位ごとに共通の任務も行っている。それは監督というか、プロデュースする何者かがいなければ、バラバラな仕事になって秩序が保たれず身体は崩壊するしかない。それら指揮者は一体何者なのか？自分でないことだけははっきりしている。

ウイルスは細胞とよべる構造がない。遺伝子のみ、または僅かな付属部品のみで構成している。従って、厳密には生物とはみなされない。ところが、そのスリムさゆえに生命力というか自身を拡大する戦術には長けている。

自己内に自分を複製増殖させる機構はもたない。そこで宿主、他の生物の細胞の中の遺伝子を乗っ取って、自己複製させるのです。その乗っ取り方が上手いのが、世間を騒がす新型コロナなのです。



血圧をコントロールするための受容体ACE2を侵入口に、細胞内では遺伝子を乗っ取り自己複製させ、後に宿主の細胞膜を突破して他人の細胞へ宿替えを目指す。

ここで考えていただきたいのが、「全ての細胞は細胞から…」の同義として「何者かの指揮者の意志に沿う」ということであり、単純化された遺伝子の、もっと言えば、肉眼で見えないサイズのウイルスのその先、カタチでない何かに従うことが生命活動になっているということです。

靈主体従、従意識

思想家中村天風は「靈といふ氣は、宇宙をつくった造り主である宇宙本体がやはり靈」と語った。宗教家の出口王仁三郎は、人間の内分が神に向かつて開けた状態、神を愛し、神を理解する「靈主体従」の理を説いた。それでいて人間は靈界と現界との中間に介在するものであるから天国も地獄も己次第「体主靈従」、体の意いが靈との共調を得られるかは自分自身という。…いややはや難しそうしてよいものだか分からぬ。

- ① 大いなる力が私たちの身の上で作用している
- ② 選択するのは自分自身
といったところか？



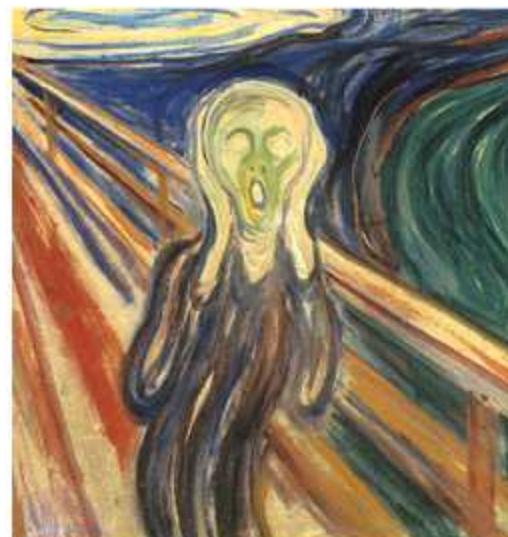
しかし、どのように「大いなる力」を理解し、何を「選択」すべきか？誰に聞けばわかるのか？…。

そこで意識の問題に触れてみたい。「意識がある」と「意識する」は全く違う使われ方をしますよね。前者は正気を取り戻したとき、客観的に他者からみた意識が確認できる状態。後者は自分で感じる意識であり、他者がどうかは問われない。

意識するのは自分だけれど、眠って夢見ているときは、誰が夢を見ている？その時、眠っている人を他人が見て「意識がない」とは言いませんよね。

無意識に行動するってことがありますね。ごはん食べたりトイレに行ったり、毎日のほとんどがそうでないですか？では、意識がない人がそうしますか？死人がトイレには行かないし、だとすると認知症？

そこまで問わなくても、歳のせいか年々一年がすぐ過ぎるという方おられませんか？それは意識する時間が減り、無意識で過ごす時間が増えたことを意味します。日本は超高齢時代を迎えてるといわれるが、歳とともにまるで幽霊に近づいているかのよう！？



画家エドワード・ムンクの代表作「叫び」(1910)。叫んでるのは自分？それとも周囲の誰か？

意識るのは画の中の人物か、それとも画を見ているあなたか？

「意識」はときどき変わることがある。以前の考えと、今は違うこともある。遺伝子は生まれたときから死ぬまで変わらないが、その働きは一方向に変化する。繰り返します。一つの方向に。

なぜ、決められた方向にしか変化しないか。それは「主」が決めた完成された創造だからです。繰り返します。完成された創造。

一方、意識は完成された創造を慮ることなく行動することができる。意識が変わることがあるのは気の榮枯盛衰、または単純に迷いかもしれない。身勝手な、自分よりな考えは慎みをもって制しなければならない…のだが、それら身勝手は、魅力的であり思考を歪曲させることも多い。私が幼少の頃、父親のコップに注がれたビールの泡を口にしたことがある。「こんなに苦くて不味いものをなぜ飲むのか」と思った。それが大人になると「豊かな味わい」と言い聞かせている自分がいる。

完成された創造に満足したい。満足できないと不幸に感じ、やがては病気を引き寄せる遠因となる。

意識は身勝手なものだが、その身勝手を放置するか、修正するかで一生を通した心からだの健康が決まる。完成された「主の体」に従う意識を備えるだけです。



目をつむって飲まないといけないぐらいビールは苦い。

ウイルスに靈魂や意識はあるか？

物理的に考えるとウイルスに神経節や感覚器がないどころか遺伝子と僅かな付属部品しかもたないのに意識(意志)や魂(靈)があるとは考えにくい。そもそも自力で自己複製すらできない他力本願なつくりで人間と比較しようとするのが最初から無理かも。それでも次の事例を見てほしい。

ヒトの卵子に精子が受精するとき、1つの卵子に多くの精子がまとわりつく。しかし、精子侵入口は一つ、後に胚形成される陷入点の真逆 180° の所、ただ1点と決まっている。つまり、選ばれし精子は最初から決まっているのです。



誘導する因子(フェロモン)に惹かれて精子はやってくるけれど、誘導する側は未知の精子、なのに決められた精子を見分けている！という事実。

たとえウイルスのような神経節や感覚器を持たないものでも「決められた一方」に能動的に動く。はたらきは「モノ」に依存してはいない。大いなる力は目に見えないように最初からメッセージされていると考えたほうがよい。

変異する新型コロナのゆくへ



新型コロナウイルスが変異したのは宿主の細胞の中と考えられる。つまり、侵入された細胞とウイルスが「これでいいですか」と対話した結果が変異につながった。一般的にウイルスは人体に害を減らす方向で変異するという。その理由は、生命同士の折衝の結果による。

多元的に変異するコロナウイルス。しかし、冒頭で書いたように日本人の6割が交差免疫を持つので感染も抑えられ重症化も少ないという。ウイルスの変異は短期間だが、免疫の本体タンパク質の構成遺伝子は基本的には生涯変化しない。ということは、6割持つようになるためには、数十世代を経なければならぬ。もしかすると平安

時代とか飛鳥時代まで遡ることになるのか？



「源氏物語」に出てくる一節。「月ごろ風病重きに堪へかねて極熱の草薬を服していと臭きによりなむ…」(訳: 風邪をひいて極暑の薬草(ニンニク)を食べたので臭いからお会いできない)という返事を返した。

新型コロナ感染症について、8割おじさんの異名で知られる西浦教授によれば、日本人の6～7割に免疫ができれば集団免疫の状態になり、あとはウイルスの退散を待つのみ、6割過ぎれば対数的だから時間はかかるないという理屈になる。

但し、ファクターXは白血球の型なので世代間レベルでしか受け継がれない。6割に達するまでは1千年～2千年の時を経なければならぬが、それでも子から孫へと遺伝子を拡散すれば、あと数世代で9割の人が免疫を持つことも可能という。

1千年、2千年の時間をかけて来るべき未知のウイルスとの戦術を備え、やがて数世代でほとんどの日本人に免疫が確立される。言い換えれば、風邪ひきが多い日本人は、それ自体が薬、神風邪として衛る力を育てやがて完成に至る。イソップ寓話ではないが、力自慢の北風の力ずくでは成し得ない、完成された創造にしかできはしない。

NPO法人 日本ホリスティック医学協会 中部支部フォーラム

胎内記憶から考える子育てと親の生き方

＊ 池川明先生はZoomで講義されます。

【Zoom講師】池川 明

私たちちは、どこから来て、どこへ行くのでしょうか。
どうして、今、この星にやってきたのでしょうか。

今、私たちの生きている意味を知って、もっともっと幸せな人生を歩んでみませんか？

【司会・進行】高橋 信雄

【プロフィール】
1954年東京都生まれ。池川クリニック院長・医学博士。1995年より「胎内記憶」に関する研究を始め、国内外の第一人者として知られています。

【プロフィール】
日本ホリスティック医学協会理事・中部支部長／高橋ファミリークリニック院長・専門は難病・病・脳と心の問題に強い専門家。

2月24日(木) 18:30~20:45

会場：名古屋市市民活動推進センター 集会室(ナディアパーク6階)
名古屋市中区栄3-18-1 TEL:052-228-8039

Web受付 ▶ holistic-chubu.org

●申込み・問合せ

〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13 長谷部式健康会 <https://hasebe-kenko.com>
TEL 0586-46-1258 FAX 0586-46-0367 E-mail hello@hasebe-kenko.com